



事件は起きた!!

あれは去年の夏。
梅雨も終わりにかけていた、蒸し暑い日だった。
いつものように平和な日が訪れるはずだったのに・・・

103教室から聞こえた叫び声
「きゃーーーーー」
1人の生徒が叫ぶ
一瞬にして目の前が真っ暗になった。
いや・・・
目の前の画面が真っ暗になった・・・
誰ひとりとしてインターネットが繋がらないのだ。

時間だけが過ぎてゆく・・・

「どうしよう・・・」
一人の生徒が言った。
その後にもう一人の生徒が言った。
「カエツンジャーを呼ぼう!!!!!!!!!!!!!!」

カエツンジャー登場!!

1人の生徒がどこからか、携帯みたいなものを取り出した。

すると横にある青いボタンを押すと、空に向けてその生徒は叫んだ。
彼には恥ずかしいという気持ちなんて少しもないようだ。

「カエツンジャー！！！！」

そう1回だけ彼は叫ぶと、太陽のずっと奥からなにかがこっちへ向かってくるじゃないか。

1人の生徒がボソッと呟いた。

「カエツンジャー登場なう」

噂によるとカエツンジャーは5人いると聞いたが4人しか見えない。

あれ、どうゆことだ・・・

遅れてきたグリーン

「カエツンジャー、レッド！」（図子）

「カエツンジャー、ブルー！」（がんちゃん）

「カエツンジャー、イエロー！」（木幡）

「カエツンジャー、ピンク！」（玲子さん）

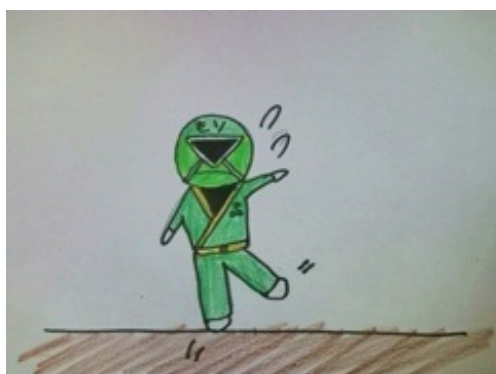


．．．

あれ、あれれ

グリーンがいない。

遅れること １０分



「ごめん！スーツが見つからなくて・・・あ、カエツンジャー、グリーン！」

と、グリーン（森先生）が言った。

なんて情けないんだグリーン・・・これじゃテレビの前で見ているちびっこ達にとってもお披露目

できっこない。



「そんなことは置いといて、カエツンジャーを呼んだのは誰だ」
レッドが言うとな人の生徒が話し出した。
「ネットがいきなり繋がらなくなったんです!!!カエツンジャー助けて!!!」

悪者ナルペコ登場

「なに、そんなことをするやつは、あいつしかいない!!!」

ピンク（玲子さん）が言うと

生徒は言った。

「あいつとは誰なんですか・・・」

「それは・・・あれ、あいつ・・・あいつだよ・・・あいつ・・・なんだっけ」

「はやくしてください!!!僕たちには時間がないのです!!」

「あれ・・・なんだっけ・・・あれ・・・確か・・・ハゲペコ?あれ・・・」

悪者の名前が思い出せないでいると、後ろのほうから

「おいっ!!おいおいおい、ハゲじゃねーよ!!n a r u p e k o
だよ!!」

カエツンジャー闘う？！

悪者 `n a r u p e k o` が自ら出てきたところで・・・

「いいからインターネットを繋ぐんだ!! `n a r u p e k o`!!」

レッドがそういうと、闘う準備をした。

だが、グリーンがいつになっても準備をし始めない・・・

「おい!!早く準備しろ!!」

レッドは言った。

「僕の武器がどこにもないんだ・・・。」

「またかーい！！」

この時点でグリーンはカエツンジャーの中でいじめられているんだと気づく。

そんなことを言っている場合ではない・・・

まずは `n a r u p e k o` を倒し、インターネットを接続させることがミッションである。

カエツンジャーピンチ!!

どー——ん！！

n a r u p e k oがグリーンに攻撃をしてきた。

落ち込んでいるところを狙ってきたのだ!!

なんて卑怯な奴なんだn a r u p e k o

「グリーン!!!!大丈夫か!？」

「おれはもうだめだあとは任せバタ!!」

グリー——ン

カエツンジャーピンチ2!!

グリーンが居なくなっていまい、

雨も激しく降るなか・・・n a r u p e k oは、どんどんパワーアップしていく！！

「どうしよう・・・このままでは、私たちも終わりよ」

ピンクがいうと・・・

レッドは思い悩んだ顔で・・・少し時間を置いてから、めったに取り出さないあの秘密兵器を取り出した!!!!

その間、ブルーとイエローがn a r u p e k oに攻撃をつづけている。

「ブルーとイエローのへなちょこな攻撃なんて、この私にきくわけがない！見ろ！この最終形態！！」

というと、なるぺこは変身した。

なるぺこ、変身

n a r u p e k o はみるみるうちに大きくなった。

「どうだこの最終形態！これでお前らも終わりだ！」

「こ．．．こんな大きくなるのか．．．」

ブルーが言った。

「くっそ、なんでやねん！」

イエローが言った。

あれ、レッドが見当たらない。

「こんなときにレッドはどこへいったのよ！」

ピンクが言った。

秘密兵器登場！

「みんな！待たせた！」

レッドが帰ってきた。

「秘密兵器をよんだ。もうすぐくるはずだ！」

どん！どん！どん！どん！

「きた！かとかんロボット！！」

かとかんロボットは、カエツンジャーの司令官、かとかんがなかに入って操縦している。

n a r u p e k o はかとかんにめっぼう弱い。

かとかんの攻撃

「か・・かとかん！」

n a r u p e k o はちぢこまった。

「な————る————ペ————こ——、かとかんびーむ！！！」

かとかんは目から光線をだした。

「うわあああああああああ」

大きかった n a r u p e k o は、あっという間にちいさくなった。

「レッド、とどめをさすんだ！」

かとかんロボが言った。

必殺！iPadビーム

「必殺！iPadビーム!」

レッドはiPadからビームをだした。

その攻撃はn a r u p e k oに直撃、倒れた。

カエツンジャーは見事n a r u p e k oを倒した！

「おいn a r u p e k o ! インターネットを元に戻せ！」
ブルーが言った。

「わかった。このスイッチを押すとインターネットが繋がる」

そのスイッチをピンクが押した。

「ちょ、ピンクいいとこどりやないか（笑）」

イエローが言った。

すると、さっきの生徒がやってきた。

カエツンジャー！

「カエツンジャー！インターネットもとに戻りました！ありがとうございます」

「平和がもどってよかった！いいんだよ、グリーンだよ！」

・・・？この声・・・

グリーンだ！！今更生き返った。

「おい、グリーンもいいとこどりかい（笑）」

レッドは言った。

ピンク「インターネットも繋がったことだし、私たちは基地に帰りましょう！」

グリーン「帰って絵かこ」

ブルー「帰って寝る」

イエロー「帰って焼き肉行こ」

レッド「帰ってiPadびーむの改良しよ」

嘉悦大学の平和がカエツンジャーによって平和になった。

また何かあったら、カエツンジャーを呼んでくれ！

大学のトラブル、なんでも解決するのだ！

end...